

「秋落ち」水田には鉄・マンガンの補給！ 稲ワラのすき込みは秋のうち！

○「秋落ち」とは

「秋落ち」とは、生育後期になって徐々に生育が停滞し、下葉が枯れ上がったり、ごま葉枯病の発生、登熟不良で玄米収量が著しく少なくなる現象をいいます。

○なぜ「秋落ち」が起きるの？

通常は水田で発生した硫化水素は土壌中の「鉄」や「マンガン」と結合することで無害化しますが、これらが不足している水田（老朽化水田）では、発生した硫化水素が根の呼吸や栄養吸収を阻害し、ひどい場合は根腐れをおこして栄養凋落をおこします。これが「秋落ち」現象です。

さらに！

「秋落ち」水田（老朽化水田）では鉄やマンガンのほかに稲に重要な「けい酸」やその他の微量元素も不足している場合が多いため、それらを含む土づくり肥料を施用してけい酸や微量元素を補給することが大切です。

おすすめ「鉄・マンガン」・「けい酸」・「微量元素」資材

肥料名	主な保証または含有成分(%)					
	りん酸	加里	けい酸	鉄	マンガン	苦土
ソイルキーパーFe			13.5	19.0		1.5
マン鉄ソイル			13.0	15.5	4.0	1.5
グルメエース特号	6.0		17.6	2.8	0.1	10.0
けい酸加里プレミア34		20.0	34.0	2.0~5.0		4.0
マルチサポート2号			20.0	3.0	0.2	12.0

稲ワラの秋すき込みをしませんか？

稲ワラのすき込みは、「土づくり」効果が期待できますが、春にすき込みをすると、硫化水素や温室効果ガスであるメタンが発生し、根腐れや初期生育の不良の原因となる場合があります。

秋の収穫後できるだけ早い段階にすき込むことで、稲ワラを分解する土壌微生物が活発に活動し、稲ワラを十分に腐熟（分解）させることができます。

さらに、すき込む作土深はトラクターの作業効率や土壌微生物への酸素供給、春先の乾燥促進などを考慮し、5 cm～10 cm程度の浅うちとし、遅くとも10月中旬までには完了するようにしましょう。

稲ワラの秋すき込みに「稲ワラ分解促進資材」の活用もおすすめです！

資材名	規格	形状	10aあたり 施用量	特徴
ワラ分解キング	10kg	顆粒	10kg	2種類の 分解菌 の力で強力に分解します。
アグリ革命	2kg	細粒	2kg	酵素 の働きで短期間で分解します。
アグリ革命アクア	100ml 500ml	液体	100ml (希釈して使用)	酵素 の働きで短期間で分解します。液体タイプで刈後の雑草防除で使用するラウンドアップマックスロードとも混用してお使いいただけます。
☆稲ワラ促進資材の上手な使い方☆ ○ワラに直接かかるように散布してください。 ○雨の日の後など、ワラが湿った状態が効果的です。 ○散布後はできるだけ早く土壌にすき込んでください。				

秋の土づくり、稲ワラすき込みで、
収量・品質の向上を目指しましょう！！

(肥料農薬部 肥料農薬推進課)

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。